

にしだ小児クリニック 併設

病児保育室 クオレ

夏かぜ と 新型コロナウイルス



夏の時期に、子どもがよくかかる『夏かぜ』の代表は、主に「エンテロウイルス」と「アデノウイルス」による感染症です。

「アデノウイルス」は、咽頭結膜熱(プール熱)や流行性角結膜炎の原因となり、「エンテロウイルス」は、手足口病やヘルパンギーナの原因となるウイルスです。

夏季および冬季に患者が増加傾向にある『新型コロナ』は、『夏かぜ』と症状が非常に似ており、症状だけでの判別は困難で、確実には検査や接触歴の確認が必要です。

※『新型コロナ』を疑う症状がある場合は、院内感染を防止するため、緊急の場合を除いて、事前に電話などによる相談や連絡をしましょう。

夏かぜ	新型コロナウイルス
発熱、のどの痛み、倦怠感	発熱、のどの痛み、倦怠感、咳、痰、鼻水
腹痛や下痢などの、消化器症状が出る場合もある。	関節痛や筋肉痛、息苦しさ、頭痛
口の中や手足に発疹、小水疱が出ることがある。	嗅覚・味覚の異常が出ることがある。
小児に多く、大人も免疫力低下時に発症することがある。 大人の場合、症状が強く出る傾向がある。	小児は感染しても、多くは軽症である。 大人は重症化、後遺症の割合が高い。
まれに、髄膜炎、脳症の合併症を起こす。	症状が急に悪化し、肺炎など重症化する場合がある。